

報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

# やっかいものエチゼンクラゲ 緑化の切り札に

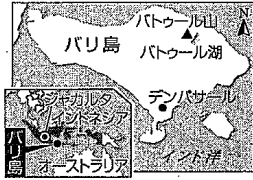


秋から冬にかけて日本海沿岸などに現れるエチゼンクラゲ。そのチップを用いて、インドネシア・バリ島の緑化を図る試みが始まった。時折大量発生し漁網などに被害を与えるやっかいものが、熱帯雨林再生に役立つのか。同島の山岳地帯で行われた試験植林に同行した。

(編集委員・仁賀奈雅行)

「山肌が黒いでしょ。抱かれた神々の島。バロ。あそこはまた植林も、リ島と聞いて悪い浮かべできません。うすうす白く、そんなイメージとは異く見える部分が多々。腰に、二十世紀前半に起草が生え、木を植える下。きたバトゥール山噴火に地ができたところ。です。伴う火災に加え、過剰伐試験植林の現場。とな。探で森林率は28%にすぎたバリ島東部の活火山。な。ちなみに日本で最バトゥール山の麓。一も森の少ない大阪府は31日、NPO法人アジア植林友好協会(東京都西東京市)の宮崎司代表が話した。細べきの海と深い森に。では、森が減って山の保

## チップに土壤改良効果



バトゥール山の麓で植林するバリ島日本語学校の生徒ら＝1日

水力は落ち、水位が最盛。学部客員教授らの開発し。に役立つのだ。生分解性期から二丘下がった。バタエチゼンクラゲやミズで牛糞系に与える影響もリ州政府も森林率を30%。クラゲなどを材料とする。少ない。江崎教授は、このチップを立ち上げ、植林に本エチゼンクラゲは大き。プを用いたものと用いな。腰を入れ始めている。いもので傘の直径が一。いもので、クロマツなど。ただ現地の土壌は、火。五。重さ二五〇以上。樹木の生育を比較。チップ山灰が表面を覆い、植林。になり、重さで漁網が破。プを使った方が、七方月には適さない。根付きが。れるなど漁業被害をもた。から九方月の間に三割か悪く、植え替えを必要と。らす。それを脱塩、乾燥。ら二倍にまで成長したと。する場合もあった。そこ。させて粉砕したクラゲチ。いい、現在も桜島で試験で宮崎代表が注目したの。チップは吸水性が高く、窒。を続けている。が、江崎次夫愛媛大学農。素を多く含み、土壤改良。今回の試験植林では、

## 東京のNPO バリ島で試験植林

日本からのツアーに加え、地元日本語学校の学生、高校生約五十人が参加。スコップを片手に客土とクラゲチップを混ぜ、生分解性の不織布などでできたポットに入ったセンダン、ユーカリなどの現地の樹木を五百本植えた。クラゲチップを使わないものも五百本植え、生育状況と比較する。江崎教授は「桜島と条件は似ている。地元の人を巻き込んでやるのは理想的で、ぜひ根付いてほしい」と期待を寄せ、宮崎代表は「効果が表れば来年以降、もっと本数を増やしてバリ島をイメージ通りの緑の島に変えていきたい」と話している。

「E」NEWS追跡

同協会が二〇〇九年から始めている植林祭も二日行われ、現地の中学・高校生ら八百人が参加、約三千本を植えた。同協会は植林のための寄付を募っている。問い合わせは、電042(451)6120。